

日本鉄鋼協会記事

共同研究会

- 第1回運営委員会** 開催日：7月1日。出席者：松下会長，ほか20名 開催地：経団連902会議室
1. 昭和56年度共同研究会決算報告
昭和56年度共研予算 32,679,200円
〃 実績 33,928,400円
 2. 昭和56年度共同研究会活動報告

圧延理論部会

- 第72回部会** 開催日：7月22～23日。出席者：平野部会長，ほか105名 開催地：新日鉄・八幡
1. 研究発表
「BEMの圧延工学の諸問題への応用」ほか18件
 2. 工場見学 No.3 製鋼工場，冷延工場

鋼板部会

- 第36回ホットストリップ分科会** 開催日：6月16～17日。出席者：松田主査，ほか91名 開催地：住金・和歌山
1. 工場操業成績報告 (S56.11～S57.1)
 2. 工場概況報告 操業状況，設備計画及び実施状況 安全など工場運営全般についての報告
 3. 共通議題「用水設備と操業」各種冷却水，デスケリングなど用水関連設備と操業状況をアンケート調査しとりまとめた。
 4. 自由議題
＜システム関連＞
“熱延の前後工程との同期化”について(6件)
＜水関係＞
「加熱炉スキッド冷却水の節減」ほか8件

鉄鋼分析部会

- 第40回発光分光分析分科会** 開催日：6月24日。出席者：井樋田主査，ほか38名 開催地：神田学士会館
1. JIS G1253 改正案について
 2. 今後の共同研究について 3. その他
- 第7回鋼中非金属介在物分析分科会** 開催日：6月25日。出席者：成田主査，ほか26名 開催地：神田学士会館
1. 鋼中硫化物の抽出分離定量法に関する研究
(1) 第9回(実用鋼)共同実験の検討結果と審議
(2) 今後の進め方 2 その他
- 第68回鋼中ガス分析分科会** 開催日：6月24～25日 出席者：藤野主査，ほか 開催地：神田学士会館
1. 窒素分析について 2. その他

標準化委員会 ISO鉄鋼部会

- 第56回SC1分科会・第14回SC1諮問分科会** 開催日：7月23日。出席者：川村主査，ほか9名。

1. 主査挨拶
(1) 5月に開催された第9回国際会議ではほぼ目標どおりの成果をあげることができた。
(2) 幹事の変更 大槻孝→佐伯正夫(新日鉄)
2. 下記案件について審議が行われた。
(1) Draft Reportの確認 (2) SC1活動指針のletter ballot (3) WG4～11への参加 (4) DP4935, V-AAS, AAS法の共通事項, Cu-吸光光度法 (5) 第9回国際会議出席報告

- 第6回SC1運営委員会** 開催日：7月16日。出席者：狐崎委員長，ほか13名。

1. 第9回ISO/TC17/SC1東京会議報告
日本が幹事国を引き受けてから初めて，第8回会議から6年ぶりに国際会議が開催され，川村和郎氏(SC1諮問分科会主査)議長のもとに山積みしていた問題の審議がおこなわれ，新活動指針を採用し，途絶えていたSC1活動が再開された。

2. SC1事務局昭和56年度決算報告。
昭和56年度の事務局運営の決算報告を承認した。
- 第60回SC4分科会** 開催日：6月9日。出席者：寺垣主査，ほか15名。

1. DR683/11(はだ焼鋼)改正に対する追加日本コメントについて
2. 製品分析許容変動値に対する日本コメントについて
3. DR683/9(快削鋼)改正に対する日本の対応について
4. 次回SC4国際会議の議事予定項目に対する日本の対応

- 第57回SC12分科会** 開催日：7月22日。出席者：三佐尾主査，ほか11名。

1. SC12東京会議の件(通訳，日本代表について他)
2. SC12/N412(DP4960)第5次案
3. 機械構造用鋼の新提案
4. ガルバリウム規格化
5. 表面処理鋼板の記号 6. SC12/N277

- 第12回SC17分科会** 開催日：7月13日。出席者：光島主査，ほか14名。

1. SC17国際会議出席報告
2. TC17総会への準備

高温強度研究委員会

- 第1回高温脆化分科会** 開催日：7月27日。出席者：田村主査(兼)，ほか22名。

この分科会は，大学5名，中立研究機関2名，会社関係17名の委員24名と幹事2名合計26名をもつて構成されており，今回新しく発足した。

第1回の分科会が次の議題のもとに開催された。

1. 主査挨拶と委員名簿の確認, 自己紹介
2. 講演 「長時間にわたるクリープ破断性質とクリープ破断機構領域図」について 金材技研・新谷紀雄委員
3. 今後の事業計画ならびに運営について

高級ラインパイプ共同研究委員会

- 第10回委員会 開催日: 7月15日. 出席者: 大日方委員長, ほか12名 開催地: 協会会議室
1. 研究期間延長
 2. 各分科会報告

鉄鋼基礎共同研究会

- 第9回融体精錬反応部会 開催日: 7月19日. 出席者: 森一美部会長, ほか24名.
1. 研究発表
 - (1) スラグ-メタル間反応のモデル実験 (名大・工)
 - (2) ハロゲン化合物を含む CaO 系混合フラックスによる 4% C-Fe 溶融合金の脱磷, 脱硫 (新日鉄・基研)
 2. 部会研究の中間まとめ (討論)

- 第13回鉄鋼材料の摩耗部会 開催日: 7月16日. 出席者: 木村部会長, ほか26名 開催地: 協会会議室

1. 研究発表
 - (1) アルミニウムの焼付き挙動に及ぼす加工硬化特性の影響
 - (2) 高クロム鑄鉄の初晶デンドライト成長と溶質元素の挙動
 - (3) 冷間圧延ロールの摩耗におよぼす圧延材の影響に関する実験
 - (4) 鉄鋼各社熱延用ロールの損耗と負荷に関する調査アンケート解析結果
2. ロール摩耗のアンケート結果と今後の研究の進め方
3. その他報告事項

- 第7回連続鑄造における力学的挙動部会 開催日: 6月8日. 出席者: 森部会長, ほか24名 開催地: 協会会議室
1. 部会活動方針について (討議・決定)
 2. 研究発表
 - (1) サーモレスタ特性による金属材料の高温塑性変形挙動の測定
 - (2) 鉄鋼材料の高温変形時の動的再結晶挙動について
 - (3) オーステナイト系ステンレス鋼の高温割れにおよぼす添加元素の影響
 - (4) 析出物と粒界変形の関係
 3. 割れ写真集報告

「鉄と鋼」特集号原稿募集案内

テーマ: 溶銑処理の発展

原稿締切日 昭和58年3月10日(木)

溶銑予備処理法は、製鋼法の主流である転炉製鋼法を補う技術として位置づけられ、一部の鋼種の溶製に適用されてきましたが、最近では、新製鋼法として、新溶銑処理法-転炉の組み合わせが開発又は実用化される傾向にあります。これらの新製鋼法では省資源、高純度鋼の製造や製鋼プロセス最適化などがねらいとされており、製鋼法における溶銑処理の比重はますます増大するものと予想されます。

新スラグ系の開発やインジェクション技術に関する基礎・応用両面における研究により、溶銑処理法は最近著しく発展しました。

以上のことから「溶銑処理の発展」と題する特集号を企画しましたので、基礎研究から実機操業に関する研究まで含めた、論文又は技術報告の御投稿をお願いします。なお、特集号には下記の内容を含めたいと考えています。

- ・脱珪, 脱硫, 脱磷反応, およびプロセス
- ・インジェクション, 攪拌, 耐火物, 成分コントロールなどの関連技術
- ・処理溶銑の活用 (例, スラグミニマム吹錬), スラグ回収を含めたトータルシステム

記

1. 原稿締切日 昭和58年3月10日(木)
2. 発行 鉄と鋼 第69年第15号(昭和58年11月号)
3. 原稿枚数 1) 論文は刷り上り8ページ以内(表, 図, 写真を含めて本会所定の原稿用紙40枚以内)
2) 技術報告は刷り上り7ページ以内(〃35枚以内)

- (注) ・原稿は本会投稿規程に基づいて執筆下さい。
・投稿された論文は編集委員会において審査されます。

4. 問い合わせ・原稿送付先 〒100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3F (社)日本鉄鋼協会編集課 (電)03-279-6021(代)

(注) 投稿時, 原稿表紙に「溶銑処理特集号」と朱書して下さい。